

—主催者側感想記—

CAOS21 の会を振り返って

南青山アイクリニック横浜  
主任執刀医  
Queen's Eye Clinic  
院長 荒井宏幸



今回、CAOS21 の会からの主催要請があった時、お受けするかどうか非常に悩みました。私に課せられたテーマは「PhakicIOL」。現時点では最もナーバスな手術であり、術式も改良を重ねている最中だからです。未完成のものをお見せする事ほど、失礼なものはないと考えていました。

しかし、次第に自分の考え方が、「本当の意味での完成された術式はない」、「完成していないからこそ、諸先輩方の意見を伺うことの出来る機会である」という方向に変化し、最終的には主催要請をお受けすることに致しました。

手術は、予想通りかなり緊張しましたが、大きなトラブルもなく無事に5件を完遂できました。この原稿を書いているのは、術後18日目ですが、現時点で5名の患者さんのうち、1名が0.9で他の4名はすべて1.2もしくは1.5の裸眼視力である事を、この紙面をお借りしてご報告致します。また、全員から「満足」の評価を頂くことが出来ました。

あくまでも私の私見ですが、LASIK を中心とする屈折矯正手術には、今回の PhakicIOL をはじめ、今後も多種多様な手技・手法が出てくると思います。そして、その精度もさらに向上するでしょう。現在の白内障手術は、術後の屈折値はほぼ計算通りになるとはいえ、本来は屈折矯正手術ではありませんので、そこには限界があります。屈折矯正手術の認知度がさらに向上し、「裸眼視力を追求するなら屈折矯正手術を」という考え方が定着すれば、白内障手術におけるストレスやトラブルも軽減するのではないかと考えています。

今回 CAOS21 の会の主催者側を経験させて頂き、改めて Live Surgery の難しさを実感しました。検討会・懇親会の席にて、私のつたない手術にも賛辞のお言葉を頂いた時には、本当に嬉しく思いました。貴重なご意見も多く頂き、今後の手術手技のヒントが数多く得られたと思います。常に気を配ってくださった、代表世話人の禰津先生と社長の細川様に感謝致します。

多くの先生方との出会いは、私の財産だと思っております。学会などでは、お気軽にお声をかけてください。飲み会のお誘いも大歓迎です。